

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492100068
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
訪問調査日	平成22年11月22日
評価確定日	平成22年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492100068	事業の開始年月日	平成21年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田		
所在地	(〒248-0027) 鎌倉市笛田1-8-54		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年11月4日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> センター方式を活用した入居者へのケア展開を行っている 認知症対応型デイサービスを併設しており、日常的な交流を行い施設全体でのケアを行っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年11月22日	評価機関 評価決定日	平成22年12月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの特徴</p> <p>①このホームの経営は三菱電機ライフサービス株式会社である。三菱電機ライフサービス(株)は三菱電機のソフトの部分の部分を扱う会社で主に6つの事業分野(総合不動産事業、介護サービス事業、フードサービス事業、商品販売サービス事業、ビジネスサポート事業、リゾートサービス事業)全国に展開し、介護サービス事業ではデイサービス、居宅介護、訪問介護、福祉用具、グループホームなどを展開し、グループホームは全国に16ヶ所、小規模多機能型居宅介護1施設があり、今後も支店所在地中心に展開を図って行くとのことである。日本最大の財閥、スリーダイヤの三菱の信頼性は絶大で、社風も健在で信頼に値するサービスが受けられる。三菱電機ライフサービス株式会社では、全社的に階層別教育に力を入れ、会議により合議展開される体制が出来ている。ここはJR大船駅と藤沢駅の間、交通の要衝の手広交差点から徒歩1~2分の便利などところにある。企業理念は名刺大に印刷し、名札につけて携帯し、一丸となって理念の展開を実践している。</p> <p>②地域との関係については、設立丸2年を迎え順調に推移している。町内会に加入し、運営推進会議に町内会長にご参加頂き、地区社協との連携でこども110番を引き受け、ご近所との関係作りも着実に出来ている。運営推進会議については3ヶ月に1回のペースで開催している。</p> <p>③ケアの方針については”全員がケアマネ”の意識を持ってケアに当たるよう指導している。センター方式を活用し、担当制をとり、今年度のキーワードは介護計画を作り、共有することであり、原案作成についても個別担当制をとり(全員ケアマネの考え方)、プランを作成し、ケースカンファレンスに提示している。職員とは理解の共通認識を図る機会となるよう、そして、ご家族には振り返りをして頂けるよう、より良いケアプランの作成に努めている。本部が鎌倉市植木にあり、センター方式の全グループホーム展開等についてもモデルホームとして率先導入し、本部と一緒に検討をする状況にある。職員の研修は会社で費用、手当てが出る形で受講の促進を図っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全社的理念はあるが、現場発信の表現とし、それを目標に進みたいと考え、センター方式の考え方にのっとり、理念を作成した。	理念としては三菱電気ライフサービス株式会社の企業理念があり、基本方針、行動指針が示されている。グループホームとしても、現場発信の表現とし、それを目標に進みたいと考え、センター方式の考え方(5つの視点)に則り、1人ワンフレーズをフロア会議で出してもらい理念を作成した。企業理念は名刺大に印刷し、名札に入れて携帯し、実現に努めている。地域密着については、事業方針の5項目目に掲げ、地域密着サービスに努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の入会・近隣の散歩のときの交流や地域行事の参加などを通じ、交流を行っている。施設へのウエスの寄付などいただいている。	町内会の入会・近隣の散歩の時の交流や地域行事の参加等を通じ、交流を行っている。又、オーナーが地元の人でもあり、農家なので野菜を頂いたりする他、ご近所との日常的に交流にも良い影響がある。地区社協との繋がりががあるので、こども110番を引き受けるなど地域との交流に努めている。ボランティアで草むしりや花植えをしてくれる方が来てくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区社協より依頼があり、民生委員・自治会長対象に地域の認知症の方達への接し方について話をした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との防災協定の締結に向けて話を進めている。町内会の入会は実現。年4回の実施を予定している。	運営推進会議のメンバーは町内会長、民生委員、地域包括支援センターの方、ご家族(3組)、それにホーム関係者で、現状3ヶ月に1回開催している。この運営推進会議を通じてケアへの取組みに関心を持って頂く事が出来た。運営推進会議を通じて町内会の入会も実現出来た。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時の報告・苦情相談や連絡会による意見交換に参加し、積極的に運営上の相談を行っている。	緊急時の報告・苦情相談や鎌倉市連絡会による意見交換に参加し、積極的に運営上の相談を行っている。グループホームの第1号ホーム設立以降、市との繋がりがあり、社会資源、医療機関等との繋がりが継続している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフには身体拘束について研修を行い、内容や拘束の禁止について理解をしてもらっている。玄関は、外部の不審者の進入対策としてオートロックとなっているが、ご家族にもその旨説明し、了解いただいている。また、契約書・重要事項にも拘束をしないことについて明記している。	スタッフには身体拘束について3ロックを含めた研修を行い、内容や拘束の禁止について理解をもらっている。センター方式なのでそのままの言葉で記録をとっている。玄関は、外部の不審者の進入対策としてオートロックとなっているが、ご家族にもその旨説明し、了解頂いている。また、契約書・重要事項にも拘束をしないことについて明記している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同時に虐待について研修を行っている。意義・内容については理解し、対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見契約を行っている入居者もあるため、学習の機会を得たいが、実現できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	右のとおりに対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会やご連絡で意見・要望の確認を行っている。また、家族懇談会を開催し、意見の聴取を行い、運営に活用している。	日々の面会の際や連絡を通して意見や要望の確認を行っている。また、家族懇談会を開催し、意見の聴取を行い、運営に活用している。利用者の意見、要望はセンター方式で拾い対応するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のリーダー会議・月1回のユニット会議にて設けている。	月2回のリーダー会議・月1回のユニット会議にて設けており、出た意見は必要に応じ、ホーム及び会社で対応している。目標管理を実施しており、年度目標を決め、1年で総括し次年度に繋げているが、次年度目標設定の前に個別面接を実施し、意見もその折に吸い上げるよう努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談等を定期的に行い、意見などを施設長・リーダーで取りまとめ、要望として代表者へあげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修の実施・参加や行政主催の研修への参加、また施設内でも毎月研修計画があり、参加することでスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の階層別研修への参加や行政での連絡会の参加などを通じて取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを家族・本人と共有し、受け入れの準備を行っている。又、本人を交えた入居相談・見学等も行っている。（問い合わせ表作成している）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ。疑問・質問について、丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括的な視点を持ち、家族・本人がもっとも安心できる方法とともに選択しているようにしている。（必要であれば、有償サービスを紹介・調整している）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間の人間関係が形成されるように観察・支援を行っている。また、ユニット間の移動を制限せず、デイの利用者も含め、お互いの行き来を危険の無い限り、見守るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアは協働で行うと位置づけ、入居前にも説明し、契約時にも協働について了解をいただいている。通院の付き添いや施設での催しへの参加等・外出・外泊のお願い他、普段の面会も含めて日常的な人間関係の維持・構築できるよう対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者により強弱・濃淡はあるが、実現できるように支援している。	ご近所の方が多く、お友達が来てくれている。個々の関係継続については、ご家族を通じ、誰とコミュニケーションをとって欲しいかは委ねており、（知られたくない人もいるので）利用者の意向の支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの人間関係などに配慮し、スタッフがコミュニケーションの仲介を行ったり、レクレーション・生活の場面を通じて交流を図ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対応している。入院退所や逝去による退所にも面会に伺ったり、お悔やみにお伺いし、ご家族の疑問や思いを聞かせていただくようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の暮らしの情報シートなどを事前に記入していただき、これまでの人生の経過について把握に努めている。	本部が鎌倉市植木にあり、センター方式の全グループホーム展開などについてもモデルホームとして率先導入し、本部と一緒に検討をする状況にあり、全国に先駆けて100%センター方式を実現し、実務で活用している。ご家族にはセンター方式の暮らしの情報シートなどを事前に記入して頂き、これまでの人生の経過について把握に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の家族シート、私の生活史シートを事前に記入してもらい、これまでの人生の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の暮らし方シート・私のできること/できないことシートを事前に記入してもらい、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月ケースカンファレンスを行い、（必要時に臨時でも開催）必要に応じて変更した介護計画を作成している。 また、ターミナル期など、必要に応じて主治医にも参加をしてもらっている。	月に1回、ケースカンファレンスを行い、（必要時に臨時でも開催、前回の評価・反省と次期への反映）必要に応じて変更した介護計画を作成している。また、ターミナル期など、必要に応じて主治医にも参加をもらっている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式による個別の経過記録シートに毎日24時間の記載を行い、共有している。また、そのシートに記載しているケアの気づきを抽出し、ケースカンファレンスに活用し、個別介護計画やケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者の担当職員・ユニットリーダーを窓口とし、施設長と相談しながら、さまざまなニーズにこたえられるように対応している。（デイとの交流・献立のリクエスト・身の回りの物品の調達・外出など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長くお付き合いのあったご友人・知人の方達が気軽に会いに来られるように対応している。また、月1回の友人との外出を習慣としている方には、継続できるように支援するなど努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医・訪問看護STと施設スタッフとでカンファレンスを行っている。また、必要時には、ご家族を交えてカンファレンスを行い、ケアと医療の方針の確認を行っている。日常的にも介護上の体調管理のアドバイスを受けることができているので、適切な医療を受けられていると思う。	各フロア月1回（ホーム全体では月2回）の主治医・週1回の訪問看護STの往診があり、月1回主治医、訪問看護師と施設スタッフとでカンファレンスを行っている。また、必要時には、ご家族を交えてカンファレンスを行い、ケアと医療の方針の確認を行っている。日常的にも介護上の体調管理のアドバイスを受けることが出来ており、適切な医療が受けられている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をしており、週1回の訪問看護とともに、24時間連絡体制をとっていただき、相談にのってもらっており、症状の変化の早期発見・早期治療に結びつけることができるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。月1回協力医療機関とは情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、了解いただいている。また、主治医からも訪問診療開始にあたり、終末期の医療対応等について意向確認が行われており、事業所と共有している。	入居時に重度化の指針を説明し、了解頂いている。また、主治医からも訪問診療開始にあたり、終末期の医療対応等について意向確認が行われており、事業所と共有している。看取りの基準も作成できており、同意書もとっている。終末期の対応については医師も交えてカンファレンスを開くようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・緊急連絡網を作成し、毎年1回は救急救命訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・救急救命訓練を実施している。地域との協力体制は防災協定の締結に向けて調整中である。	避難訓練、普通救命救急訓練を実施している。地域との協力体制は防災協定の締結に向けて調整中である。避難訓練は、デイも含めた形で実施している。備蓄については、外のロッカーに3日分位を持っており、関係介護実施や親会社との協力も期待出来る。防災頭巾も揃えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアとしての言葉遣や対応を理解して実施できている職員とそうでない職員がいる。また、感情の抑制がうまくできない場面もみられているが、研修をしたり、その場で注意したり、努力はしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、言葉遣や対応を理解して実施できている職員とそうでない職員のバラつきが見られる。研修やその場で注意を行う等、全職員が理解と配慮ができるよう指導していく所存である。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような質問の仕方をしたり、表情や気分に着目したケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースを尊重しつつ、無為にならないよう調整しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・日用品はできるだけなじみのものを持ち込みいただき、使用してもらっている。また、洗面所の周囲を使いやすいように整理整頓し、場合により椅子を持ってきたり、外したり、個別に使用しやすい環境を整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストの応じたり、献立をアレンジすることもある。飲み物も個別に工夫して提供している。準備や後片付けの参加、下ごしらえや味付け・盛り付けの参加や相談をするなど、楽しんでできる工夫をしている。	レシピ付き食材を活用しているが、利用者のリクエストに応じたり、献立をアレンジすることもある。野菜などを頂くと、品数がプラス1にする等、工夫して提供している。飲み物も個別に工夫して配慮している。準備や後片付けの参加、下ごしらえや味付け・盛り付けの参加や相談をする等、利用者が楽しんで出来ることを工夫をして支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律に決めたものではなく、個別の嗜好にあわせた飲料の提供・補食の提供・食事形態の工夫を行っている。また、健康維持への配慮はもちろん、量やバランスは個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行っている。夕食後は、義歯を殺菌消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄パターンを記録し、排泄パターンの把握に努め、できるだけ本人の力を使って排泄できるよう（薬にできるだけ頼らず）予防的に排泄に取り組むことができるよう調整している。	各人の排泄パターンを記録し、排泄パターンの把握に努め、出来るだけ本人の力を使って排泄できるよう（薬にできるだけ頼らず）予防的に排泄に取り組むことができるよう調整している。センターシートの活用でサインを見流さないケアを進めている。例えば「赤ちゃん、赤ちゃん」と云って出てきた時にオシッコだったケースもあった。そんな事例を集めている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態や水分量・活動量・食事のバランスに配慮し対応している。薬を使用するときも、微調整をしながら、心身の負担を最低限にできるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望にはあわせることができていない。ほとんどの方はマンツーマンでの介助が必要なため、職員配置の手厚い時間帯に行い、安全に入浴できることを優先にしている。ただ、入浴するときには、不安を和らげ、リラックスして入浴できるように声かけや介助方法を工夫している。	ほとんどの方はマンツーマンでの介助が必要な為、100%入浴の希望には合わせることは出来ないが、職員配置の手厚い時間帯に、極力利用者の希望に合わせて行い、安全に入浴出来ることを優先に心掛けている。また、入浴する時には、本人の不安を和らげ、リラックスして入浴できるように、声かけや介助方法を工夫して配慮している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者によっては、体調の自己管理ができない方も多く、状態を見ながら、静養することも介助にて行う必要がある。寝具の調整も心がけており、安眠できる環境となるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療時間にスタッフが立会い、主治医からの指示を伝達したり、スタッフからの相談を伝え、答えてもらったりしている。使用する薬の説明については、個別ファイルに管理し、適宜確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員により、理解の差はあったりするが、概ね実施できていると思われる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、日常的に散歩は実施できるように努めている。また、その他の外出に関しては、家族や知人の方々にも協力いただき、外出支援を促している。	季節にもよるが、日常的に散歩は実施できるように努めている。ドライブにも良く出かけ、おやつを持って出て外で食べることもある。また、その他の外出に関しては、家族や知人の方々にも協力頂き、外出、外食の支援を促している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として、現金は預からず、立替払いとしている。現金所持を希望される方は、自己責任で所持いただいている。また、使用に関しては、依頼により、購入したり、ご家族とともに使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用方法が分からないかたが多いので、施設の電話機をスタッフが取次ぎをして使用していただくか、携帯電話を持ち込んでいただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	決まった時間に湿度・温度のチェックをしている。転倒や怪我・異食を予防できる工夫をしつつ、入居者の方々が落ち着いて和むことができるように工夫している。最近の行事などの写真をかざることは、一番関心が持てるようであるし、自分で製作した作品を飾って楽しんでいるかたもある。	共用のスペースが食堂、ソファコーナー、コーナーリビングと沢山あり寛げる。決まった時間に湿度・温度のチェックをしている。転倒や怪我・異食を予防できる工夫に努め、入居者の方々が落ち着いて和むことができるように工夫している。最近の行事などの写真を飾ることは利用者の関心が向かい、自分で製作した作品を飾って楽しんでいる方もいる。カラオケも行っている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーリビングと称するスペースを設けたり、ソファスペースを設けることで視線が適度にさえぎられたり、すわり心地が変わったり、窓からの景色が変わったりすることで、効果はあると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れたものや大切なもの（お仏壇など）を持ち込んでいただき、居室として違和感の少ない環境に近づけている。また、居室含め、全体の照明を電球色を使用し、リラックスできるように配慮している。	居室は、長年使い慣れたものや大切なもの（お仏壇など）を持ち込んで頂き、本人が違和感の少ない環境に配慮している。また、居室含め、全体の照明を電球色を使用し、リラックスできるように工夫している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様となっており、段差の解消・手すりの設置は行われている。また、トイレや浴室などの共用部分・他の入居者の個室などプライベートであることなどを分かりやすいように表示をしている。転倒などの事故を予防できるように、足元には物を置かないようにしたり、リビングの椅子は肘掛を使用、また、防災目的のためのアセスメントを行ったり、ADLの変化に伴う環境調整をできるようにチェックする仕組みをもっている。		

事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
ユニット名	2F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全社的理念はあるが、現場発信の表現とし、それを目標に進みたいと考え、センター方式の考え方にのっとり、理念を作成した。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の入会・近隣の散歩のときの交流や地域行事の参加などを通じ、交流を行っている。施設へのウエスの寄付などいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区社協より依頼があり、民生委員・自治会長対象に地域の認知症の方達への接し方について話をした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との防災協定の締結に向けて話を進めている。町内会の入会は実現。年4回の実施を予定している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時の報告・苦情相談や連絡会による意見交換に参加し、積極的に運営上の相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフには身体拘束について研修を行い、内容や拘束の禁止について理解をしてもらっている。玄関は、外部の不審者の進入対策としてオートロックとなっているが、ご家族にもその旨説明し、了解いただいている。また、契約書・重要事項にも拘束をしないことについて明記している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同時に虐待について研修を行っている。意義・内容については理解し、対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見契約を行っている入居者もあるため、学習の機会を得たいが、実現できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	右のとおりに対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会やご連絡で意見・要望の確認を行っている。また、家族懇談会を開催し、意見の聴取を行い、運営に活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のリーダー会議・月1回のユニット会議にて設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談等を定期的に行い、意見などを施設長・リーダーで取りまとめ、要望として代表者へあげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修の実施・参加や行政主催の研修への参加、また施設内でも毎月研修計画があり、参加することでスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の階層別研修への参加や行政での連絡会の参加などを通じて取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを家族・本人と共有し、受け入れの準備を行っている。又、本人を交えた入居相談・見学等も行っている。（問い合わせ表作成している）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ。疑問・質問について、丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括的な視点を持ち、家族・本人がもっとも安心できる方法をとるを選択しているようにしている。（必要であれば、有償サービスを紹介・調整している）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間の人間関係が形成されるように観察・支援を行っている。また、ユニット間の移動を制限せず、デイの利用者も含め、お互いの行き来を危険の無い限り、見守るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアは協働で行うと位置づけ、入居前にも説明し、契約時にも協働について了解をいただいている。通院の付き添いや施設での催しへの参加等・外出・外泊のお願い他、普段の面会も含めて日常的な人間関係の維持・構築できるよう対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者により強弱・濃淡はあるが、実現できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの人間関係などに配慮し、スタッフがコミュニケーションの仲介を行ったり、レクレーション・生活の場面を通じて交流を図ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対応している。入院退所や逝去による退所にも面会に伺ったり、お悔やみにお伺いし、ご家族の疑問や思いを聞かせていただくようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の暮らしの情報シートなどを事前に記入していただき、これまでの人生の経過について把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の家族シート、私の生活史シートを事前に記入してもらい、これまでの人生の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の暮らし方シート・私のできること/できないことシートを事前に記入してもらい、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月ケースカンファレンスを行い、（必要時に臨時でも開催）必要に応じて変更した介護計画を作成している。 また、ターミナル期など、必要に応じて主治医にも参加をしてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式による個別の経過記録シートに毎日24時間の記載を行い、共有している。また、そのシートに記載しているケアの気づきを抽出し、ケースカンファレンスに活用し、個別介護計画やケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者の担当職員・ユニットリーダーを窓口とし、施設長と相談しながら、さまざまなニーズにこたえられるように対応している。（デイとの交流・献立のリクエスト・身の回りの物品の調達・外出など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長くお付き合いのあったご友人・知人の方達が気軽に会いに来られるように対応している。また、月1回の友人との外出を習慣としている方には、継続できるように支援するなど努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医・訪問看護STと施設スタッフとでカンファレンスを行っている。また、必要時には、ご家族を交えてカンファレンスを行い、ケアと医療の方針の確認を行っている。日常的にも介護上の体調管理のアドバイスを受けることができているので、適切な医療を受けられていると思う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をしており、週1回の訪問看護とともに、24時間連絡体制をとっていただき、相談にのってもらっており、症状の変化の早期発見・早期治療に結びつけることができるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。月1回協力医療機関とは情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、了解いただいている。また、主治医からも訪問診療開始にあたり、終末期の医療対応等について意向確認が行われており、事業所と共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・緊急連絡網を作成し、毎年1回は救急救命訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・救急救命訓練を実施している。地域との協力体制は防災協定の締結に向けて調整中である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアとしての言葉遣や対応を理解して実施できている職員とそうでない職員がいる。また、感情の抑制がうまくできない場面もみられているが、研修をしたり、その場で注意したり、努力はしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような質問の仕方をしたり、表情や気分に着目したケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースを尊重しつつ、無為にならないよう調整しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・日用品はできるだけなじみのものを持ち込みいただき、使用してもらっている。また、洗面所の周囲を使いやすいように整理整頓し、場合により椅子を持ってきたり、外したり、個別に使用しやすい環境を整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストの応じたり、献立をアレンジすることもある。飲み物も個別に工夫して提供している。準備や後片付けの参加、下ごしらえや味付け・盛り付けの参加や相談をするなど、楽しんでできる工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律に決めたものではなく、個別の嗜好にあわせた飲料の提供・補食の提供・食事形態の工夫を行っている。また、健康維持への配慮はもちろん、量やバランスは個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行っている。夕食後は、義歯を殺菌消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄パターンを記録し、排泄パターンの把握に努め、できるだけ本人の力を使って排泄できるよう（薬にできるだけ頼らず）予防的に排泄に取り組むことができるよう調整している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態や水分量・活動量・食事のバランスに配慮し対応している。薬を使用するときも、微調整をしながら、心身の負担を最低限にできるように工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望にはあわせることができていない。ほとんどの方はマンツーマンでの介助が必要なため、職員配置の手厚い時間帯に行い、安全に入浴できることを優先にしている。ただ、入浴するときには、不安を和らげ、リラックスして入浴できるように声かけや介助方法を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者によっては、体調の自己管理ができない方も多く、状態を見ながら、静養することも介助にて行う必要がある。寝具の調整も心がけており、安眠できる環境となるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療時間にスタッフが立会い、主治医からの指示を伝達したり、スタッフからの相談を伝え、答えてもらったりしている。使用する薬の説明については、個別ファイルに管理し、適宜確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員により、理解の差はあったりするが、概ね実施できていると思われる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、日常的に散歩は実施できるように努めている。 また、その他の外出に関しては、家族や知人の方々にも協力いただき、外出支援を促している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として、現金は預からず、立替払いとしている。現金所持を希望される方は、自己責任で所持いただいている。また、使用に関しては、依頼により、購入したり、ご家族とともに使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用方法が分からないかたが多いので、施設の電話機をスタッフが取次ぎをして使用していただくか、携帯電話を持ち込んでいただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	決まった時間に湿度・温度のチェックをしている。転倒や怪我・異食を予防できる工夫をしつつ、入居者の方々が落ち着いて和むことができるように工夫している。最近の行事などの写真をかざることは、一番関心が持てるようであるし、自分で制作した作品を飾って楽しんでいるかたもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーリビングと称するスペースを設けたり、ソファスペースを設けることで視線が適度にさえぎられたり、すわり心地が変わったり、窓からの景色が変わったりすることで、効果はあると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れたものや大切なもの（お仏壇など）を持ち込んでいただき、居室として違和感の少ない環境に近づけている。また、居室含め、全体の照明を電球色を使用し、リラックスできるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様となっており、段差の解消・手すりの設置は行われている。また、トイレや浴室などの共用部分・他の入居者の個室などプライベートであることなどを分かりやすいように表示をしている。転倒などの事故を予防できるように、足元には物を置かないようにしたり、リビングの椅子は肘掛を使用、また、防災目的のためのアセスメントを行ったり、ADLの変化に伴う環境調整をできるようにチェックする仕組みをもっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田

作成日

平成22年11月22日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内 容	目標達成に 要する期間
	2	事業所と地域との付き合いが薄い。	ボランティアの受入れ、定期的な交流を持つようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生や本部(植木)のボランティアを紹介してもらう。 ・ボランティアの受入れ体制を整える。 	1年
	14	同業者との交流を通じた向上	ケアの取組みについて発表できる場(機会)を持つ 横の繋がりを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者連絡会にて意見交換を行う ・本社事業所：階層別研修にて発表する 	1年
	45	入浴を楽しむことができる支援	<ul style="list-style-type: none"> ①季節を感じられる風呂 ②安心して入浴が出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①季節ごとの企画風呂 ②浴室、脱衣所の環境の整備と職員の技術向上 	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。